

一般社団法人 日本リハビリテーション工学協会

2013年度事業報告

日本リハビリテーション工学協会 2013年度の経過

2013年度は5月に開催された役員改選によって15名の理事と2名の監事が選出され、8月の社員総会において正式に承認されたことによって、本協会の新体制が始動しました。

まず盛岡市において8月22日から24日まで第28回リハ工学カンファレンスを開催すると共に福祉機器コンテストを実施し、2回の選考会を経て受賞作品を9月の国際福祉機器展、11月の西日本福祉機器展の本協会ブースに展示いたしました。また2013年8月と11月、2014年2月と5月に協会誌を発行いたしました。

分科会活動として九州・山口・沖縄支部が設立され7月の理事会において正式に認められました。2014年4月にいわき市において第2回東日本大震災復興支援リハ工学講習会を開催しました。現在10あるSIGは、協会が一般社団法人となったことで経理上の問題が発生し、名目上は外部団体の扱いになっていますが、独立した協力関係のSIGとして継続するか、協会組織下のSIGとなるかアンケートを実施し協議を進めているところです。国際関連では昨年11月にソウルで開催された第7回RESKOにおいて次回リハ工学カンファレンスの宣伝を行い、iCREATeのTech教授と会談を予定しましたが、日程が合わず実現しませんでした。

今後も公益法人化に向けて規定の整備や経理上の問題を解消する努力を継続していく予定ですが、しばらくは時間がかかる見通しとなっています。引き続き会員の皆様のご理解とご支援をいただきますよう、お願いいたします。

会長 繁成 剛

1. 社員・会員

1-1. 法人社員・会員

2013年7月1日 正会員 824名（うち社員（代議員）94名）、学生会員 30名、賛助会員数 26社（78口）

2014年6月30日 正会員 848名（うち社員（代議員）94名）、学生会員 43名、賛助会員数 25社（75口）

2. 事業

本協会の主たる事業は、リハ工学カンファレンスの開催、福祉機器コンテストの実施、協会誌の発行、SIG活動及び委員会活動である。以下に、各事業の2013年度の活動を報告する。

2-1. リハ工学カンファレンス関連（担当理事：剣持悟・山形茂生）

1) 第28回リハ工学カンファレンス（いわて）の開催

テーマを「みちのくで今、絆をカタチに！」と題して第28回リハ工学カンファレンスをいわて県民情報交流センター・アイーナにおいて高橋明氏（いわてリハビリテーションセンター）を大会長として2013年8月22日（木）～24日（土）に開催した。

会員・協賛団体、障害当事者、学生、リハ工学技術者及び研究者、医療専門職、社会福祉・教育・企業関係者が参加した。3日間の参加者はスタッフを含み合計で344名（内、有料参加者293名、下記参照）であった。

参加種別	協会員 協賛団体	非協会員	学生	当事者 発表者	合計
第28回（いわて）	222名	36名	35名	1名	344名

- ・研究発表等
 - 口頭発表：22セッション、104演題（うち、英語セッション3演題）
 - インタラクティブセッション41演題（うち学生セッション（特別企画）11演題）
 - イブニングセッション13セッション
- ・基調講演
 - 「病める医療」講演者：小川彰氏（岩手医科大学理事長） 座長：高橋明氏（大会長）
- ・特別講演（一般公開）
 - 「震災後の経営方針―業態開発と新店舗と新商品―」
 - 講演者：齊藤俊明氏（さいとう製菓（株）社長）
- ・特別展示
 - 東日本大震災における岩手県立大学の地域での活動を紹介するポスター展示
 - ハンドバイク（手こぎ車いす）の紹介（本間聖章氏による久慈⇒盛岡の自走記録）
- ・企業展示 リハビリテーション工学関連企業9社による製品展示を行った。
- ・交流会
 - カンファレンス2日目、イブニングセッション終了後に交流会が開催された。関係者の挨拶の後、学生発表での優秀者に対する表彰がとり行われ、盛岡さんさ踊りも披露された。
- ・福祉機器コンテスト・閉会式
 - 例年通り行われた。

2) 第29回リハ工学カンファレンス開催に向けての準備

- ・広島国際大学呉キャンパスを訪れ、会場の下見を行った（2013年10月）。
- ・大会テーマ「ひろしまからの発信」
- ・開催期間は、2014年8月24日（日）～27日（水）（但し、24日（日）は、東広島キャンパスにて公開市民講座、福祉用具展示、参加受付のみを実施予定）
- ・大会長は秋山實利氏（広島国際大学学長）、実行委員長は南山求氏（広島国際大学総合リハビリテーション学部学部長）と決定した。

3) 第30回リハ工学カンファレンス開催に向けての準備

- ・沖縄県のMICEプロジェクトに招待され、カンファレンス開催可能な施設を見学した。また、沖縄県庁を訪問し、県施設の早期予約の要望及び関係団体へのご挨拶を行った。2名の障がい者を訪問し、協力要請と県内障がい者の情報収集を行った（2013年11月）。
- ・沖縄県コンベンションビューローの半額助成を受けて、沖縄を訪問した。開催場所と実行委員組織について最終調整を行った（2014年2月）。
- ・大会長および実行委員長に就任承諾をいただき、覚書の調印を行った（2014年6月）。
- ・第一回目準備委員会にカンファレンス担当理事（剣持）が参加した（2014年6月）。

2-2. 福祉機器コンテスト関連（担当理事：元田英一）

1) 福祉機器コンテスト2013の執行状況

- ・第1次選考会：2013年7月13日（土）応募作品の書類・ビデオ審査（於：横浜市総合リハビリテーションセンター）
- ・第2次選考会：2013年8月23日（金）機器開発部門：プレゼンテーション審査、学生部門：書類・ビデオ審査（於：リハ工学カンファレンス会場（いわて県民情報交流センター アイーナ））
- ・応募件数 全43件（機器開発部門21件うち10作品を選考、学生部門22件うち9作品を選考）。
- ・受賞件数：機器開発部門：最優秀賞1件、優秀賞2件
学生部門：最優秀賞なし、優秀賞2件
- ・発表、表彰：第40回国際福祉機器展（H.C.R.2013）会場内 2013年9月20日（金）
- ・展示、広報
 - 第40回国際福祉機器展（H.C.R.2013）（東京）2013年9月18日（水）～9月20日（金）

(表彰式/受賞作品の実物展示)

- 第15回西日本国際福祉機器展 (P.P.C. 2013) (北九州市) 2013年11月22日(金)～24日(日) (受賞作品の実物展示)
- コンテスト結果報告書を作製し関係団体へ配布した。協賛企業への無料広告の募集をした。
- リハビリテーション工学 Vol. 29, No. 1 に結果報告書と協賛企業広告を掲載した。

2) 福祉機器コンテスト 2014 の準備および実施

- 特別協賛：フランスベッド株式会社
 - 協賛：株式会社ケーブ、株式会社松本義肢製作所、東名ブレース株式会社、株式会社今仙技術研究所、株式会社モリトロー、川村義肢株式会社、株式会社有菌製作所
 - 後援：厚生労働省、経済産業省、公益財団法人テクノエイド協会、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)、日本福祉用具・生活支援用具協会、一般社団法人日本作業療法士協会
- ・2014年度コンテスト事務局となる有限会社車座との業務委託契約を結んだ。
 - ・福祉機器コンテスト 2014 選考委員会の設置 (2014年4月1日～)
 - ・募集対象：機器開発部門、学生部門
 - ・広報開始・応募要綱配布：4月17日(木)
 - ・募集期間：機器開発部門：2014年5月1日(木)～6月9日(月)
学生部門：2014年5月1日(木)～7月7日(月)
 - ・展示および広報
 - バリアフリー2014 (大阪) 2013年度の展示と2014年度コンテストの広報 2014年4月17日(木)～19日(土)
 - ウェルフェア 2014 (名古屋) での優秀作品のパネル展示 2014年5月23日(金)～25日(日)

2-3. 協会誌関連 (担当理事：高原光恵)

- 1) 協会誌発刊：以下の4号 (各1000部印刷) を発刊した。
 - ・Vol. 28 No. 3 2013/8 特集「心からリハするーファッションナブルに生きたいー」
 - ・Vol. 28 No. 4 2013/11 特集「難病とリハ工学」
 - ・Vol. 29 No. 1 2014/2 特集「私の手になる道具たち」
 - ・Vol. 29 No. 2 2014/5 特集「安全に安心して使い続けるために (車椅子編)」
- 2) 編集委員会の開催
協会誌発行にあわせ4回開催したほか、随時、メーリングリストにて編集状況の報告相談等を行った。
- 3) 投稿論文 (査読依頼)
査読担当の委員を新たに迎え、査読体制の構築を図った。
2013年度は、投稿8件 (研究論文2件、ショートペーパー1件、研究報告2件、技術報告1件、資料1件、その他 (報告) 1件) あった。また、2013年度に掲載された論文数は、Vol. 28 No. 4 に4件 (研究論文3件、研究報告1件)、Vol. 29 No. 1 に2件 (技術報告1件、報告1件)、Vol. 29 No. 2 に2件 (研究論文1件、技術報告1件) であった。
- 4) その他
 - ・4月に1件、査読者人選および査読依頼を行った。ただし、査読の新体制成立以前に投稿受付された分であるため、従来の方針にて行った。
 - ・新編集委員を募り、決定した。
 - ・協会誌関連の規定整備作業を進めた。

2-4. 分科会・専門委員会（担当理事：岩崎満男）

1) SIG 活動

- ・SIG との協力関係の推進及び活動支援

2013年8月23日のリハ工学カンファレンス期間中にSIG代表者会議を開催し、SIGの位置づけとして、協会から独立した協力関係のSIGと、協会組織下のSIGのどちらかに移行すること、また、SIG活動費支給要綱を2013年度限定の内規として運用することを説明し、各SIG代表からの意見収集を行った。

- ・11月22（金）～24日（日）開催の第15回西日本国際福祉機器展（P.P.C.2013）に、各SIGに協力を要請した。リハ工学協会のブース出展に伴い、ブース内のチラシ配布措置を講じた。九州・沖縄・山口支部に対して、ブーススタッフとしての応援依頼を行った。また、セミナー開催等の企画を要請した。
- ・SIGの位置付けを議論するために、各SIGについての調査とアンケートを実施した。法人内SIGへの移行については、以下の結果となった。

【移行する】SIG姿勢保持、移乗機器SIG、SIG褥そう防止装置、自助具SIG、特別支援教育SIG

【移行しない】車いすSIG、SIG住まいづくり

【保留】コミュニケーションSIG、乗り物SIG、義肢装具SIG

- ・2014年4月17（木）～19日（土）に、インテックス大阪開催のバリアフリー2014にて、各SIGに協力要請し、リハエブース出展に伴いブース内のチラシ配布措置を講じた。

※ 参考 各SIG活動状況（会員数は2014年7月1日の人数（ ）内は協会員数を示す）

SIG 姿勢保持	http://www.resja.or.jp/posi-sig/	会員数：288名（53名）
代表者：繁成 剛（東洋大学） 事務局長：中村詩子（北九州市立総合療育センター）		
・講習会開催：2013年8月25日 いわて県民情報交流センター アイーナ（盛岡市）		
・講習会開催：2014年6月28・29日 東洋大学 朝霞キャンパス（埼玉県）		
・書籍（小児から高齢者までの姿勢保持・第2版）や資料集PDF版の販売		
車いすSIG	http://www.resja.or.jp/wc-sig/	会員数：162名（79名）
代表者：松尾清美（佐賀大学） 事務局長：深野栄子		
・講習会開催：2013年8月20・21日 いわて県民情報交流センター アイーナ（盛岡市）		
・講習会開催：2014年1月12日・13日 山梨県立図書館 かいぶらり（甲府市）		
・WEBサイト運営、テキスト発行（年2回）、分科会（BOG）活動、東日本大震災復興支援、協会事業への協力 他		
自助具SIG		会員数：9名（9名）
代表者：岡田英志（ヒューマン） 事務局長：岡田英志（ヒューマン）		
・特別講演／講習会開催：2013年8月24日 いわて県民情報交流センター アイーナ（盛岡市）		
乗り物SIG		会員数：7名（4名）
代表者：岩崎満男（(有)岩崎） 事務局長：松尾清美（佐賀大学）		
・協賛：2013年10月5日 神奈川リハの移動機器フェスティバルへの参加		
・講習会共催：2014年4月12日、13日 東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会（福島市）		
・セミナー共催：2014年4月20日 第3回関西支部セミナー		
SIG 褥そう防止装置	http://www.resja.or.jp/sig-pmps/	会員数：20名（20名）
代表者：廣瀬秀行（国立リハセンター研究所） 事務局長：河合俊宏（埼玉県総合リハビリテーションセンター）		
・役員会の開催		
コミュニケーションSIG	http://www.resja.or.jp/com-sig/	会員数：67名（20名）
代表者：渡辺崇史（日本福祉大学） 事務局長：上野忠浩（横浜市総合リハビリテーションセンター）		
・WEBサイト運営、A T A Cセミナー講師派遣、東日本大震災復興支援等協会事業への協力		
SIG 住まいづくり	http://www.resja.or.jp/sumai-sig/	会員数：107名（60名）
代表者：橋本美芽（首都大学東京） 事務局長：西村顕（横浜市総合リハビリテーションセンター）		
・会員向けアンケート調査：2013年10-11月実施。		
・講習会開催：2014年4月12日、13日 東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会（福島市）		
特別支援教育SIG		会員数：5名（5名）
代表者：松田靖史（川村義肢株式会社） 事務局長：高原光恵（鳴門教育大学）		
・講習会開催協力：2014年4月12日、13日 東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会（福島市）		
・各種講習会企画への協力相談、情報交換		
移乗機器SIG	http://www.reha.kobegakuin.ac.jp/~hp-reha/transfer/index.html	会員数：118名（21名）
代表者：古田恒輔（神戸学院大学） 事務局長：青木久美子（宇部記念病院訪問リハビリテーション）		
・移乗機器SIG講習会 in 岩手 2013年8月25日（岩手県自治会館）		
・移乗機器SIG講習会 in 鹿児島 2014年2月15～16日（カクイクススウィング鹿児島営業所 会議室）		
「スライディングシートとボード」を用いた移乗と起居関連動作について～理論と実際～		
・リフトフェア共催 2013年8月2～3日「導入困難事例検討を担当」（東京都飯田橋いきいきプラザ）		
・第2回東日本大震災復興支援講習会参加 ・役員会の開催		
義肢装具SIG	http://www.resja.or.jp/po-sig/	会員数：174名（50名）
代表者：早川康之（北海道工業大学） 事務局長：砂野義信		
・講習会開催：2013年8月24日 義肢装具SIG第9回講習会 岩手県民会館（盛岡市）参加者数：52名		
・講習会開催：2014年4月12日、13日 東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会（福島市）		
・WEBサイト運営		

(注)各 SIG から表記以外多数の活動報告を受けましたが、紙面の都合上割愛させて頂いたことをご了承下さい。詳しくは2014年度事業計画(案)に記した各 SIG のホームページ等をご覧ください。

2) 支部活動

- ・支部新設の推進および既設の支部への活動支援

2013年度第1回(通算第16回)理事会(7月21日開催)にて、九州・沖縄・山口支部の設立申請書が承認され支部設立となった。

- ・2013年11月22日(金)～24日(日)に、九州・沖縄・山口支部にて西日本国際福祉機器展(P.P.C.2013)にてリハ工学ディスカッション・セミナー・出展ブース巡回ツアーを行った。
- ・2014年4月20日(日)に、関西支部合同セミナー「車椅子の昨日、今日、明日」(日本福祉用具評価センター:JASPEC)が開催され参加者約30名以上で、3名の講師(中村俊哉氏:福まち研究所、松尾清美氏:佐賀大学、内藤淳平氏:WHILL)により基調講演を行った。

3) 東日本大震災復興支援に関する専門委員会

2014年4月12日(土)～13日(日)に、福島市の福島テルサにて「第2回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 福島」を開催した。

8SIG(車いす、コミュニケーション、乗り物、特別支援教育、移乗機器、義肢装具、姿勢保持、住まいづくり)より各講師派遣され、充実した講習会となった。

2-5. 企画推進事業(企画担当理事:宮野茂樹・剣持悟/事業統括理事:金井 謙介)

協会の広報活動および会員獲得に向けたPR活動、公益活動のために以下の展示会出展および出展社セミナー等の開催を行った。

1) 学会展示会、広報活動強化

以下の展示会へブース出展し、広報活動を実施した。

- ・第40回国際福祉機器展(H.C.R.2013)(2013年9月18日(水)～9月20日(金) 於:東京ビッグサイト(東京都))にブース出展し、協会広報を行った。
- ・第15回西日本国際福祉機器展(P.P.C.2013)(2013年11月22日(金)～24日(日) 於:西日本総合展示場新館(北九州市))にブース出展し、協会広報を行った(協力:九州・沖縄・山口支部)。
- ・バリアフリー2014(2014年4月17日(木)～19日(土) 於:インテックス大阪(大阪市))にブース出展し、協会広報を行った(協力:関西支部)。
- ・ウェルフェア2013第17回国際福祉健康産業展(2014年5月23日(金)～25日(日) 於:ポートメッセなごや(名古屋市))のなごや福祉用具プラザの協力のもと、同プラザブースの一角をお借りしてコンテストを中心に協会広報を行った。
- ・第13回高知福祉機器展バリアフリーフェスティバル(2014年6月13日(金)～15日(日) 於:ふくし交流プラザ(高知市))にブース出展し、協会広報を行った。

2) セミナー開催

- ・第40回 国際福祉機器展 H.C.R.2013(2013年9月18日(水)～9月20日(金) 東京ビッグサイト) ワークショップにて、リハビリテーション工学基礎講座【難病と支援機器】(講師:井村保氏)をSIGの協力を得て開催した。
- ・第15回 西日本国際福祉機器展 P.P.C.2013(2013年11月22日(金)～24日(日) 西日本総合展示場)にて、ワークショップを開催した。日時は11月24日(日)14:40～15:10で、テーマは「車いす座位の不良姿勢をすっきり整えるテクニック～あなたとワタシの腰痛予防～」であった。講師は別府リハビリテーションセンターの山形茂生氏であった。また同日13:00～14:30でパネルディスカッションも行われ、「リハ工学ディスカッション～ファッショナブルに生きるための車いすや乗りもの～」と題して活発な討議が行われた。

- ・バリアフリー2014（大阪）でワークショップを開催した。日時は 4/19（土）13：30～14：30 で、場所はインテックス大阪 1 号館 第 2 セミナー会場で、テーマは「車椅子の歴史から考える車椅子の未来」として行った。講師は兵庫県立福祉のまちづくり研究所 研究第二グループ 技師 中村俊哉氏であった。
- ・日本難病看護学会とのコラボレーションセミナー（2014 広島）実施に向けて、井村保氏を中心に調整を行った。

3) 第 2 回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 福島開催

東日本大震災復興支援に関する専門委員会は、SIG の協力を仰ぎながら福島県福島市で第 2 回復興支援講習会を開催した。参加者は専門職が多く、リハビリテーション工学の啓発、技術伝達を行い、好評を得た。

4) SNS ページ立ち上げ

Facebook ページ「一般社団法人日本リハビリテーション工学協会【試行版】」を正式ページにし、運営を事務局に移管する予定であったが、名義変更は一度しか出来ないため、しばらく継続することとした。

2-6. 国際関連の事業（担当理事：畠中規・古井透）

- ・9 月 18 日にポルトガルで行われた AAATE（欧州リハ工学会）総会に参加し、障害者のための長期施策を重要課題に位置付けるよう求めた国連あての公開書簡に、他の 4 つの国際団体とともに署名し国連に提出された（前理事代理出席）。
- ・11 月 1 日～2 日にソウルで行われた第 7 回 RESKO（韓国リハ工学会）カンファレンスにて次回リハ工学カンファレンス（広島）の広報を行った。
- ・RESKO のボードメンバーに理事名簿を周知した。
- ・広島カンファレンスでの国際セッション開催調整を行った。
- ・i-CREAtE（東南アジアリハ工学国際会議）と Asian Assistive Technology Alliance（アジアリハ工学ネットワーク）に関する連絡調整をおこなった。
- ・ICCHP（障がい者への教育分野のコンピュータ利用に関する国際会議）との連絡調整。
- ・協会 web サイト英語版掲載情報の更新。

3. 総務

3-1. 会則・選挙（担当理事：鈴木聖貴）

1) 代議員による役員選挙

役員選挙を実施した。役員選挙は代議員の承認とし、役員 17 名（理事 15 名、監事 2 名）が定時社員総会にて承認された。

2) 公益法人化の準備

公益法人認定の申請に向けて、調査検討を行なった。ただし公益認定化は先送りする（詳細は、第 5 号議案）。

3) 規定の整備

各種施行細則などの規約の整備を行い、5 件の規程（規則）が制定・改正された。

- ・個人情報取扱規則
- ・情報公開規則
- ・名誉会長等規程
- ・協会誌発行規程
- ・事務局設置規則

3-2. 法人化（担当理事：相良二郎）

- ・公益認定申請に必要な手続きを理解するために、国・都道府県公式 公益法人行政総合情報サイトを利用するための登録手続きを事務局とともに実施し、完了した。
- ・上記サイトを利用して公益認定申請に必要な書類内容について調査を行った。
- ・パブリックコメント案について再度検討を行った。
- ・公益認定手続きに関して、NPO 法人への見積もり依頼を行ったが、本法人が負担できる金額ではなかった。
- ・公益法人行政総合情報サイト上において申請書類作成に着手し、公益事業として定款に基づき、①リハ工学カンファレンスの開催、②協会誌「リハビリテーションエンジニアリング」の発行、③福祉機器コンテストの開催、④国際協力、⑤分科会活動について、事業概要、公益事業であることの理由等の項目を入力した。
これに対して、事業毎の予算配分作業が必要である。

3-3. 財務（担当理事：沖川悦三）

- 1) 公益法人化を目標とした財務管理・諸表の整備
 - ・前年度に団体・法人を統括した財務管理・諸表を基盤にして、公益法人化を目標とした財務管理・諸表の整備を実施した。
 - ・年度をまたぐカンファレンス事業とコンテスト事業をそれぞれ年度別に計上し、また本会計と並列表記する形式に変更した。
 - ・新年度予算（案）作成の調整を実施、作成した。

3-4. 総会・理事会等会議開催（担当理事：水澤二郎）

総会、理事会について下記の通り行った。

1) 2013 年度定時社員総会の開催

- ・日時：2013 年 8 月 23 日（金） 11:50～13:00
- ・場所：いわて県民情報交流センター（第 28 回リハ工学カンファレンス（盛岡）会場）

2) 2013 年度第 1 回（通算第 16 回）～第 7 回（通算第 22 回）（法人）理事会の開催

7/21、8/23（第 28 回リハ工学カンファレンス（盛岡）会期中）、9/29、12/8、3/9、6/1 に開催した。この他、電磁的手段（メール）による第 6 回（通算第 21 回）理事会を開催した（3/25～4/3）。

3-5. 広報・渉外（担当理事：塚田敦史）

他団体からの催事後援等の新規依頼や協力依頼の調整を進めた。詳細は後述 4. 4) 後援・協賛事業の表（9 ページ）を参照されたい。

4. 事務局（担当理事：沖川悦三）

1) 事務局運営

法人としての事務局を運営し、法人会計の整備を進めた。

2) ホームページの運営管理

会員サービスの一環とし、今まで以上のホームページ掲載内容の充実を図り、迅速に情報を掲載した。

3) メールニュースの配信

メールニュースを、月 1 回以上を原則とし 14 通配信し、会員に情報提供を行った。

4) 後援・協賛事業（主催団体と内容）

2013 年 7 月 1 日～2014 年 6 月 30 日までは、以下（次ページ）の事業の後援・協賛を行った。

(*: 新規)

No.		団体名	開催日程	内容
1	後援	広島国際大学	2013/7/7	広島国際大学 2013年度 福岡健康フェア
2	後援	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団	2013/7/26～27	ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド 2013～福祉を支える人とテクノロジーの総合展～
3	協賛	バイオメカニズム学会	2013/7/26～28	第23回バイオメカニズム・シンポジウム
4	後援	バイオフィリア リハビリテーション学会	2013/8/31	第17回バイオフィリアリハビリテーション学会大会
5	協賛	特定非営利活動法人 ヒューマンインタフェース学会	2013/9/10～13	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2013
6	協賛	公益社団法人計測自動制御学会	2013/9/12～14	ライフエンジニアリング部門シンポジウム2013 (LE2013)
7	後援	一般社団法人ナンフェス	2013/9/23	ウォーク&ランフェスタ2013
8	協賛*	神奈川県総合リハビリテーションセンター	2013/10/5	第2回 かなりは リハ工学・福祉機器フェスティバル
9	後援	臨床歩行分析研究会	2013/11/3～4	第35回臨床歩行分析研究会定例会
10	後援*	社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 総合リハビリテーションセンター 福祉のまちづくり研究所	2013/11/9	兵庫県立福祉のまちづくり研究所創設20周年式典・シンポジウム
11	協賛	バイオメカニズム学会	2013/11/16～17	第34回バイオメカニズム学術講演会
12	後援	広島国際大学	2013/11/17	広島国際大学 2013年度 秋の健康フェア
13	協賛	西日本国際福祉機器展実行委員会	2013/11/22～24	PPC2013第15回西日本国際福祉機器展
14	後援*	川村義肢株式会社・社会福祉法人日本介助犬協会・大東市総合文化センター	2013/12/7	介助犬のひろばin大東
15	協賛	感覚代行研究会	2013/12/9～10	第39回 (2013年) 感覚代行シンポジウム
16	協賛	公益社団法人計測自動制御学会システムインテグレーション部門	2013/12/18～20	第14回SICEシステムインテグレーション部門講演会
17	後援*	特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター	2014/1/14～2/14	ウェルフェアデザインコンテスト
18	後援	国立障害者リハビリテーションセンター	2014/2/16	障害者の災害対策シンポジウム ～被災地から学ぶこれからの備え～
19	後援	日本チェアスキー協会	2014/2/27～3/2	第35回日本チェアスキー大会 -みんなのすきーきょうしつ-
20	協賛	特定非営利活動法人モバイル学会	2014/3/13～14	シンポジウム「モバイル`14」
21	後援	広島国際大学	2014/5/18	2014年度「広島国際大学 健康フェア in 福岡」
22	後援*	第49回日本理学療法学会	2014/5/30～6/1	公益社団法人日本理学療法士協会
23	協力*	高知福祉機器展実行委員会・生き生きサポートセンターうえるば高知・社会福祉法人高知県社会福祉協議会	2014/6/13～15	第13回高知福祉機器展 バリアフリーフェスティバル